

稲作

刈り取りに向けた準備

刈り取り時期の判定

刈り取り時期の決定は、その後の収量や品質に大きな影響を与えます。早刈りすると青未熟粒の混入割合が多く、また遅刈りすると胴割粒や着色粒の割合が多くなり、検査等級が低下しますので、適期に刈り取るよう心掛けましょう。

左の5つを考慮しながら、各圃場の状態を加味して刈り取りしましょう。



収穫作業について

コンバインを故障なく使うためには、使用前後の点検や整備が必要です。

- ① こき深さやこき胴の回転等の調節をしつかり行い、能率良く刈り取りしましょう。
- ② 脱穀はこき残しの少ない程度の浅めにし、わらくずの発生を少なくしましょう。
- ③ 稲の乾いている午前10時から午後5時頃に刈り取りましょう。
- ④ 収穫は乾燥機の能力に合わせ、生籾を当り中に乾燥しましょう。
- ⑤ 収穫作業は余裕を持って行い、事故防止に努めましょう。

―整備等については、農機課まで問い合わせ下さい―

① 出穂後の日数	早生品種（あきたこまち等）……出穂後45日頃 中晩生品種（めんこいな等）……出穂後50日頃
② 出穂後の積算気温	早生品種……………950～1,050℃ 中晩生品種……………1,050～1,150℃
③ 出穂後の積算日照時間	収量水準540kg……………190～255時間 収量水準570kg……………200～265時間 収量水準600kg……………215～280時間
④ 枝梗黄化程度	主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃
⑤ 籾の黄化程度	最終的には籾の黄化程度90%で決定

営農行事案内

平成25年産米の初検査実施



平成25年産米初検査を、9月20日からJA各倉庫にて実施します。品位鑑定資格を持つJA関係者たちが、新米の出来を確認し、今年度の二等米比率などを判定します。

なお、検査は11月末まで行う予定です。

秋田米栽培来歴カードの提出についての

お詫びと訂正について

8月外務にて配布致しました「秋田米栽培来歴カードの提出について」の文章の中で

「運動の種子をご理解いただき、必ず出荷前に提出くださるようお願いいたします。」と記載されておりました。

正しくは「運動の趣旨をご理解いただき、必ず出荷前に提出くださるようお願いいたします。」と訂正致します。訂正が遅れてしましまして、申し訳ございませんでした。